

京都府戦略的地震防災対策推進部会の開催結果概要について

- 1 開催日時 平成26年9月3日（水） 午後4時30分～午後6時35分
- 2 場 所 京都府職員福利厚生センター3階第1会議室
- 3 出席委員 林部会長、牧委員、明致委員、窪田委員
- 4 議事の概要

1) 新たな戦略的地震防災指針体系の方向性について

- ①戦略指針、推進プランの見直しの手順等
- ②戦略指針見直しの前提条件
- ③減災目標の方向性

2) 現行の戦略指針の評価及び推進プランの進捗状況について

5 主な意見

①戦略指針、推進プランの見直しの手順等について

- ・ 理念や目標は、各部局の幹部がよく議論の上、案を作り、我々専門家がそれに意見を述べることとする。
- ・ 具体的な施策等は、その後に議論すること。
- ・ 実際にはどんな具体的事業を実施するのかという議論が重要となることが多いが、理念や政策目標の価値基準の下で行う必要がある。

②戦略指針見直しの前提条件について

- ・ 指針の見直しにあたっての新たな視点については、課題の提起と併せて、対応の方向性についても記載すべき。そうした方が議論の論点が整理される。
- ・ これまでの府の災害対応の経験や教訓を活かすという視点も加えるべき。
- ・ 人口減少など社会構造の変化を踏まえた対策として、「コンパクトシティ」という考え方が国で議論されている。防災という観点からも検討を加え、新指針で議論すべきではないか。一般的に昔から存在する集落は災害に強く、新興住宅地の方が災害には弱いと言われており、危険な地域からの「縮退」を誘導していく京都型のコンパクトシティのあり方も検討してはどうか。
- ・ アセットマネジメントについては、防災にアセットマネジメントを取り入れるのも良いが、アセットマネジメントに防災という考えを取り入れる、ということも必要。
- ・ 空き家問題についても、これらの議論に含めるべきだ。

③減災目標の方向性について

- ・ 今後10年を見据えた見直しなので、現時点から新たな10年として目標を設定し直すことは良いが、現行の計画の残り5年と、今後の5年が重複することになるので、この部分について整理が行えると良い。
- ・ これまでの事業が進捗しているのか、していないのかという評価についても次の目標設定に関係する。

- ・ 今後10年間の数値予測する根拠は実のところあいまいなもの。したがって、10年先の減災目標は大まかな「想定目標」として設定し、5年先までの政策として中期目標を設定する方法もある。
- ・ 減災効果と住宅耐震化率の相関が高いため、減災目標は「住宅耐震化率」で設定してはどうか。その方が府民に分かり易いのではないか。

④現行の戦略指針の評価及び推進プランの進捗状況について

- ・ 現行指針の評価については、原案どおり了承し、推進プランについては5年間で順調に進捗していると評価する。
- ・ 社会状況が大きく変化してきている中で、自主防災組織の組織率や消防団の充足率を100%にすることのみで地域防災力を確保するという考え方は過大な期待であり、次期プランではその他の設定としてNPOの取組などを含めることも議論してはどうか。